

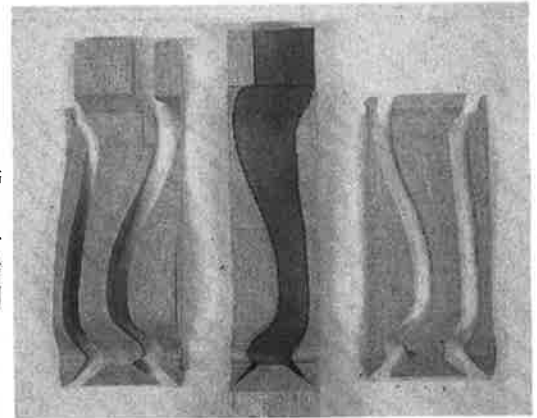
オーブン
カレッジ

本学の設計課題で、学生からしばし「猫脚」の椅子が提案される。インテリアを学ぶ女子学生にとつて、猫脚(カブリオール脚)は、魅力の一つであることは間違いない。しかし、この造形を正確に理解し、図面化することは容易でない。

学生に三面図とアクリルのスケッチを描きながら説明するが、なかなか造形を理解してもらえず、スルメイカのような脚が返つてきてしまう。そこで筆者自らが2分の1縮尺の模型を作る事にした。

6角のバルサ材に図面を貼り、バンドソーで切断

ものづくりの原理原則と造形の合理性



ラトン(1751~1806)といった、インテリアデザイナーが活躍し、イギリス家具デザインの黄金期を迎える。この時代の家具デザインは、今でもアンティーク家具のスタイルの原型となっている。

その後、猫脚はアメリカでも流行するが、生産技術の違いもあり、裝飾が簡素化され、アメリカン・チャペンドールとも呼ばれた。

その中央部に残るのが猫脚である(写真は着色済み)。角材の段階で台輪の取付け部に、ほぞ穴またはタボ穴を開けておけば、接合精度は高いものとなる。生産の合理性が理解できる。しかも、極めて短時間で制作できたことにも、筆者自身が驚いた。

猫脚の起源としては、フ

ランスのルイ15世時代の、ロココ様式が有名であるが、量産家具に用いた一人が、トーマス・チャペンドール(1718~1779)である。時代はイギリスの産業革命(1760年代~1830年代)で中産階級が生まれ、高級家具が求められた。同時代には、ロバート・アダム(1728~1792)、ジョージ・ヘップルホワイト(不詳~1786)、トーマス・シェ

永く愛される

猫脚を再評価

する。図面に従い片面に2本、直角面に2本の、計4本の切断線を入れることで、角材は九つに分断される。



梶山女学園大学学生生活科学部
生活環境デザイン学科教授
滝本 成人

現在の家具デザインが、生産の効率化・コスト削減・職人不足等の理由で、デザインがおろそかになっていることが極めて残念である。また、インテリアデザイナーといっても、既製品家具を並べる設計者が多いことにも、疑問を感じている。

冒頭の猫脚の模型は4脚作り、学生がいつでも見られるところに展示している。先人の優れた造形を、単なる形のバリエーションで取られることなく、ものづくりの原理原則と造形の合理性への理解を願っている。

たきもと・なりひと 工業デザイン。名古屋工業大学大学院博士後期課程社会学専攻 博士(工学)。